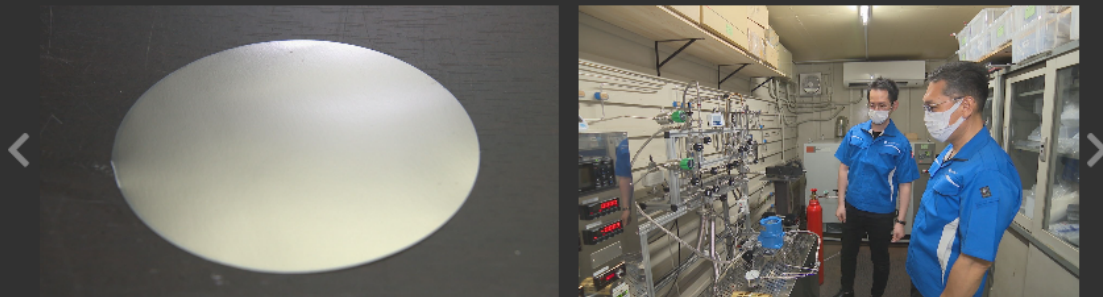


## 水素エネルギーのススメ

2021-08-08



2015年のパリ協定以降、「脱炭素」が世界共通のキーワードとなり、次世代のクリーンエネルギーとも言われる水素は今、注目をあびている。

そうした中、大分市のベンチャー企業「株式会社ハイドロネクスト」が開発したのが「水素精製システム」。

燃料電池などに水素を利用する場合、高い純度が求められ、二酸化炭素などの不純物を取り除くために、各不純物に対応した専用の吸着物質が必要になるなど、コストも手間もかかっていた。

ハイドロネクストは、大分工業高等専門学校（大分県大分市）の松本佳久教授が開発した水素透過技術を応用。混合ガスを「バナジウム金属膜」に透過させることで、水素だけを取り出すことができ、高い純度の水素を精製することが可能。シンプルな構造のため、製造コストやランニングコストを抑えることができる。

ハイドロネクストの永井正章社長（49）は「大分の地の利を活かして、水素エネルギーの地産地消」に挑戦しようとしている。大分コンビナートから出るガスに着目し、そこから水素を精製しようというもの。

脱炭素社会の構築に向けて注目が集まる中、水素エネルギー社会の実現を目指す永井社長の挑戦と、水素エネルギーの可能性を追う。